

●嵐山町の子ども達には、どんな学校給食が理想なのか、
そのためにどうすべきか、考えなおして見ませんか。

菅谷小学校の学校給食共同調理場を改修して、学校給食センターとして新築し、志賀小学校の共同調理場も廃止したいというプランが公表されたのは2002年3月議会でした。

財政困難時、突然の給食センター建設は疑問でした。また、学校給食施設の建設に保護者や子ども達の意見をとりいれようとしないことも不可解でした。

6月になって、平沢区画整理地内の売れない保留地を嵐山町に購入してもらい、そこに学校給食センターを建設すればよいという話が出てきました。さらに大妻嵐山中学の学校給食を嵐山町でつくってほしいと大妻嵐山の学校長が議長の口添えで要望書を提出したと聞きました。そして、菅谷小学校PTA会長からは、PTA会員に知らせることなく、菅谷小学校の敷地外に学校給食センターの建設を求める要望書が提出されました。その要望書を理由に教育委員会は、学校給食センター用地を学校敷地外に選定してほしいという文書を町長に提出しました。

●財政困難時に給食センター建設がトントン拍子に進むのはなぜでしょうか…

…市町村合併するまえに、借金で嵐山町に老朽化した学校施設を整備しよう……合併すると、嵐山町の学校施設整備の予算をとることは難しい……借金は合併した後の新しい自治体が返せばよい……それならば、区画整理地内の売却できないでいる保留地を学校給食センターの建設地として嵐山町が購入し、保留地が売れない問題も一挙に解決しよう……大きい施設を建設するには、給食数が多いほうがよい……大妻嵐山中学の給食をつくることで食数が増える……様々な窮状から脱出するアイデアがつながったのか… 嵐山町政のモラルの低下がないことを祈ります。



男女共同参画政策推進特別委員会では、嵐山町の男女平等政策をすすめるために必要なことは、どんなことだろうかと話し合っています。10月～11月にかけて社会教育にかかわる人、学校の先生、農業者商業者の女性、嵐山町の若手職員、子育て真っ最中の女性のグループとの意見交換の機会を持ちました。議会委員会が公的に住民のみなさんの御意見を伺うことは、始めてといていいくらい画期的なことです。性同一性障害の問題が身近な問題であること、自営で働いている女性のたくましさ后感嘆しました。子育て中の女性に多くの町政への提案があることもわかりました。不慣れなため、御迷惑をおかけしましたが、こういった機会が必要だなとつくづく思いました。

今後とも、御意見をお聞かせ下さい。

昨秋、東京で一人暮らしをしている母(79歳)が脳梗塞で入院。介護度4と認定されました。家で暮らすのは難しいので、施設をさがしました。どの施設もたくさんの方が待っていて厳しい状況です。母親が利用するという目で施設をみると、ユニットで小人数のグループで生活できる配置になっているほうが落ち着くようです。

●お子さんが難病というご連絡をくださった方、どんなことに困っているか、どんな支援が必要か、教えてください。どうぞ、連絡ください。

